

ポラリス保健看護学院

<施設の概要>

管理者	学院長 星 北斗
所在地	〒963-8041 福島県郡山市向河原町 159 番 7 号
開設年月日	1977 年 9 月 1 日 (創始者 星 一雄) 医療関係分野 看護学科 修業年限 3 年 定員 30 名
課程変更	1998 年 4 月 医療関係分野 保健看護学科 修業年限 4 年 定員 40 名
建学の精神	「荒海孤舟北極星」 ～看護の対象となる病人は荒海に一つ漂う小舟のようである。そのような人たちの揺るがぬ道しるべとなる北極星のような看護職者であれ
建物概要	鉄筋コンクリート 4 階建
総面積	3559.52 m ² (内法にて測定)
卒業時の資格	保健師・看護師 国家試験受験資格 (厚生労働省) 高度専門士称号 (文部科学省)
教職員構成	学院長 1 名、副学院長 1 名、教務主任 1 名、実習調整者 2 名、 専任教員 12 名、事務の長 1 名、教務事務 1 名、 司書 1 名 (法人と兼務) 計 19 名 (2024 年 4 月 1 日現在)

<教育実績>

- ・入学選抜試験応募者数、受験者数、入学者数、卒業生数、国家試験合格率、卒業時の進路、標準年限卒業率、学校評価は以下の通りである。

表 1. 入学選抜試験応募者・受験者・入学者数一覧

年度	回生	応募者 総数 (人)	受験者数内訳		合格者総 数(人)	合格者数内訳		入学者 数(人)
			特別 (人)	一般 (人)		特別 (倍率)	一般 (倍率)	
令和 4 年度	25 回生	51	26	25	38	16 (1.6)	22 (1.1)	31
令和 5 年度	26 回生	73	23	50	59	22 (1.0)	37 (1.4)	38
令和 6 年度	27 回生	73	31	36	46	18 (1.7)	28 (1.3)	37

表 2 卒業生数

校名(回生)	卒業年月	卒業生数	累計
(財)星総合病院附属高等看護学院 (第 1~21 回生)	昭和 55 年 8 月~ 平成 12 年 3 月	671	671
ポラリス 保健看護学院	(22 回生)	令和 5 年 3 月	33
	(23 回生)	令和 6 年 3 月	35
	(24 回生)	令和 7 年 3 月	36
総 計			1553

表3 国家試験合格率

受験年	学生	看護師（新卒）			保健師（新卒）		
		全国平均（%）	本学院（%）	合格者/受験者	全国平均（%）	本学院（%）	合格者/受験者
令和4年度	22回生	93.7	100.0	33/33	90.8	100.0	33/33
令和5年度	23回生	95.7	100.0	35/35	87.8	100.0	35/35
令和6年度	24回生	90.1	100.0	36/36	94.0	94.4	34/36
平均		93.2	100.0		90.8	98.1	

表4 標準年限卒業率（入学時の学生が既定の4年間で卒業した者の割合）

入学年月	回生	a 入学者数 (人)	卒業年月	b 標準修業年限 卒業生数(人)	標準修業 年限卒業率 (b / a) %
平成31年4月	22回生	37	2022.3	33	89%
令和2年4月	23回生	38	2023.3	34	89%
令和3年4月	24回生	36	2024.3	35	97%
平均		37		34	91.7%

表5 卒業時の進路

回生	卒業年月	a 卒業生数 単位	就 職										進 学			
			保健師(行政、他)			医療施設				県内への就職			内 訳			
			b 県内	c 県外	d 小計	d/a 平均	e 県内	f 県外	e+f =g 計	g/a 割合	b+c =h 計	h/a 割合	i 人数	i/a 割合	j 助産師	k 養護教諭
			人	人	人	%	人	人	人	%	人	%	人	%	人	人
22	R4.3	33	4	0	4	12.0	17	10	27	81.8	21	63.6	2	6.0	2	0
23	R5.3	35	6	1	7	20.0	20	6	26	74.3	26	74.3	2	6.0	2	0
24	R6.3	36	7	0	7	19.4	17	8	25	69.4	24	66.6	4	11.1	4	0

表6 公益財団法人星総合病院への就職率

回生	卒業年月	a 卒業生数	医療施設への就職者数			b/a 割合
			b 星総合病院	県内他施設	県外	
		人	人	人	人	%
22	令和4年3月	33	12	5	10	36.4
23	令和5年3月	35	19	1	6	54.3
24	令和6年3月	36	17	0	8	47.2
平均		34.7	16.0	2.0	8.0	46.0

表7 学校評価

令和6年度 ポラリス保健看護学院 自己点検・自己評価

当てはまる3、やや当てはまる2、当てはまらない1

項目	No	内容	R6	問題点と説明	R6 平均 (R5)
教育理念 教育目標	1	教育理念ならびに教育目標が教職員・学生・保護者に周知されているか。	3	1. 入学生及び保護者に説明する機会を設けている。特に、入学説明会、家族の会総会、学級懇親会を活用し、その機会に教育内容や方法と教育目標のつながり、各学年ごとの目標や教育方針の繋がりを説明に加えている。	3 (3)
	2	教育目標に、養成する看護師が卒業時においてもつべき資質を明示している。	3		
	3	卒業時の到達状況を分析し、教育活動にフィードバックしている。	3		
教育課程	4	教育課程は、教育理念・教育目標と一貫性がある内容になっているか。	3	5. 新カリキュラムに移行した教育の成果を教職員で検討できるよう定期的に研修会を開催した。 6. 新カリキュラムでは、学生が主体的に学習する時間を確保し、かつ臨床判断シミュレーションの症例は現場の状況に併せて設定を工夫しているため、シラバスとの完全な一貫性につながっていない。しかし、より卒業時の到達度が上がるような工夫なのでシラバスの変更など県への申請を今後検討していく。 8. 新カリキュラムでは急性期病院における「慢性期実習」と「訪問看護ステーション実習」を組み合わせ地域包括ケア、つながる退院支援を学ぶことができた。	2.86 (2.86)
	5	定期的に教育課程の評価を組織的に行い、時代の要請、変化に対応しあったものに修正しているか。	3		
	6	授業概要(シラバス)は学生が授業内容を理解しやすく授業内容と一致しているか。	2		
	7	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表しており、かつ、評価が公平性・妥当性が保たれているか。	3		
	8	実習目標に沿った病棟の選択および学習環境・指導体制が整っているか。	3		
	9	実習における患者への倫理的配慮に関するガイドラインを作成し、患者等の同意を得た上で実施しているか。	3		
	10	学生指導において人権への配慮がされているか。	3		
教育活動	11	効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整しているか。	3	15. 教員全員がチームを組んで年に1階の授業研究に取り組み、開発の要素を入れている。 16. 教員の教育力や指導力を柔軟に伸ばしていくためには、今あるプリセプターシップの運用や教員ラダーの運用を効果的に進めるよう推進が必要である。中堅の教員による実践が必要である。	2.83 (2.83)
	12	授業内容や指導方法が学生レベルに合うように工夫し改善しているか。	3		
	13	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	3		
	14	成績評価の不合格の要因分析を教員側とで実施し、対応策を講じているか。	3		
	15	授業評価の実施・評価体制はあるか。	3		
	16	教員の指導力育成、能力開発のための研修等が行われているか。	2		
学修成果	17	就職率の向上が図られているか。	3	18. 令和6年度も看護師国家試験100%合格が達成できた。しかし、保健師国家試験は看護師対策や臨床実習実践により計画的学習に結び付かず、合格率は全国平均は上回ったものの94.4%であった。 20. 高学年へのキャリアサポートの時間としてキャリアカフェを開催、認定看護師や手術室Ns、小児科Nsなど学生の希望を取り入れて交流し、学生の評判もよかった。	2.75 (3)
	18	国家試験合格率の向上が図られているか。	2		
	19	単位未修得者や休学者などの支援が図られているか。	3		
	20	卒後のキャリア形成に係る情報提供相談及び支援をしているか。	3		
学校運営	21	法人の事業計画に沿った学校の運営方針が策定されているか。	3	22. 目標管理については、本人による自己評価を重視し、それを確認するシステムとするが、随時面談は必要に応じて行っていたが、法人で運用しているHODAS(能力開発)や教員ラダーを反映できていなかった。 24. 新カリキュラムを3年間実施し、新たな授業や教材の組み立てに法人内外への交渉や連携を踏まえてカリキュラム実践が効果的であった。さらに、次年度は4年次にも新カリキュラムを運営する年度であり、さらに、組織間や他部署等との連携による成果拡大はこれからである。	2.89 (2.78)
	22	事業計画は教職員に理解され、個人目標管理は機能しているか。	2		
	23	運営組織や意思決定システムは明確で効率的になっているか。	3		
	24	組織間、各部署間の連携は適切に図られているか。	3		
	25	教育活動等に関する情報公開が適正にされているか。	3		
	26	情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	3		
	27	学生、非常勤講師、教職員の個人情報保護の対策がとられているか。	3		
	28	災害など非常時の危機管理体制が整っているか。	3		
	29	自己評価を実施し問題点の改善につとめているか。	3		
学生指導	30	進路・就職に対する支援体制は整備されているか。	3	30. 進路に対する学生支援を強化し、適宜相談や指導を行っている。 33. 母体の総合病院と連携し、4月中に健康診断を受け、結果返信後、健康手帳の活用を行い自己管理を推進している。 34. 継続的に授業参観には多数の参加者があり、学院への期待などの声も出ている。	3 (3)
	31	学生相談に関する体制は整備されているか。	3		
	32	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	3		
	33	学生の健康管理を担う体制は整備されているか。	3		
	34	保護者と適切に連携しているか。	3		

教育環境	35	施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	3	38. クラスや他学年間で親睦を図ることができるような時間や場所の確保を行っている。また、学生会と連動して学生が主体的に学び、遊び、社会人基礎力をつけていくために必要なイベントや学生会行事の支援をしている。困ったときや懸念事項があるときもタイムリーに危機回避できるように指導している。 40. 校舎管理、教育内容、教員、実習などに係るあらゆる項目について満足度調査を行い、改善できることには着手している。	(2.83)
	36	ICT 教材を活用した授業ができるよう、ICT 環境を整備されているか。	3		
	37	図書室は適切に整備されているか。	3		
	38	学生が休息、親睦、交流等を行うスペースが設けられているか。	3		
	39	コロナウイルス感染症対策は整備されているか。	3		
	40	学校運営などに学生の意見が反映されているか。	3		
入学	41	教育理念・教育目的との一貫性から入学者選抜についての考え方を述べているか。	3	42. 一般選抜入学試験の日程を 2 日設けていることで受験生の数は保たれている。しかし、倍率が上がってはいないので、広報の工夫をしたい。特に県内だけでなく近隣県（南東北など）の広報も視野に入れていく。 43. 県看護学校協議会や県医療福祉教育施設関連協議会など団体でできる集客活動を検討したい。	3 (3)
	42	入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証しているか。	3		
	43	学生募集活動は、適正に行われているか。	3		
	44	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	3		
卒業	45	卒業生の就職先での評価を把握し、問題を明確にし、教育を改善するために、就職先との情報交換や調査の実施などができる体制が整っているか。	2	45. 母体病院の看護部教育担当者などに卒業教育の実施状況をヒヤリングしている。 46. 統計的な整理ができていないので調査を取り入れる。 47. 看護師教育と保健師教育の段階的到達度を学習科目と学習目標に落とし込み 1 面に見える化し、実習指導者や看護管理者、教職員で共有している。	2 (1.67)
	46	卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理し、教育理念、教育目標、授業の展開に活用しているか。	2		
	47	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、それを計画的に行っているか。	2		
社会貢献 地域貢献	48	社会との連携において、地域のニーズを把握し、看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っているか。	3	48. ボランティアサークルが活発に活動し様々なニーズに応えている。地域（住民）、緩和ケア病棟、小児病棟など医療ボランティアにも積極的である。また、令和 7 年 4 月から運用するおおまちてらすへの期待も高く、立地している大町のマップを作成したり、住民が考える学生と一緒にやってみたいことをまとめたりしている。	3 (3)
	49	養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段、養成所から地域社会へ情報を発信する手段を持っているか。	3		
	50	地域の特徴を把握し、地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れているか。	3		
	51	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	3		
国際交流	52	国際的視野を広げるための授業科目を設定しているか。	3	52. 「国際保健」の講義を経験豊富な福島県立医大の講師に依頼した。各グループで開発途上国のデータを分析し、健康課題を抽出し、具体策を立案、何で評価するかという GW を行い発表する機会を得た。	1.67 (1.67)
	53	海外からの帰国学生や留学生の受け入れ態勢があるか。	1		
	54	留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制があるか。	1		
研究	55	教員の研究活動は保証されているか（時間的、財政的、環境的）。	3	56. 看護研究は教科目にもあり、教職員も評価者となっている。また、新カリキュラムの教材や教育内容を研究で評価する姿勢もあり、学会発表などに参加し他学校とのネットワークも作っている。	3 (2)
	56	教員の研究活動を助言・検討する体制が整っているか。	3		
	57	研究に価値を置き、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所にあるか。	3		

- ・ 6～11 月 学校説明会を計 7 回開催し高校生及び保護者計 220 名が参加する。
- ・ 9 月 北極祭一般公開を開催し、250 名の来場目標を達成する。
- ・ 3 月 25 回生 31 名がオーストラリアのブリスベンで研修し、DX 教育を学び、地域踏査を行う等、海外の保健医療福祉情勢を知り福島の課題を学習する。

主な会議と目的

会議名	目的
運営会議	学院運営の円滑化を図る。
職員会議	学院の円滑な管理運営を図る。
教務会議	教育に関する具体的な事項を審議する。
臨時実習指導者会議	臨地実習の教育効果を上げる。
講師会議	専任教員及び講師の各授業科目に関して連絡協議を行う。
マネジメント会議	学院の安全・感染管理、業務改善を検討し充実した運営を図る。

○運営会議

担当者：渡辺美保子・横田幸恵・伊藤幹子

<概要>

- ・ 学院運営の円滑化を目指し、教育計画運営状況、学則、他について協議する。
- ・ 委員構成：学院長、運営委員（理事代表・総務人事部長・法人看護部長・校医）
副学院長、教務主任、事務の長 計 8 名

<会議経過・実績>

- ・ 5 月 入学選抜試験～試験方法の検討、学生支援～法人の育英資金申請者推薦
- ・ 10 月 入学選抜試験検討
- ・ 11 月 特別選抜試験合否判定、令和 6 年度教育計画検討
- ・ 12, 1 月 一般選抜入学試験の検討 一般入学選抜試験合否判定
- ・ 2 月 卒業認定：4 年生（36 名）、年度内再履修者の検討
- ・ 3 月 進級認定：3 年生～1 年生